

大日山・コメカミ沢の四〇m滝

二〇一三（平成二五）年四月二二日「月」

天候 晴れ

同行者 なし

時間 廃林道分岐12:10……12:23滝の落ち口……12:32廃林道分岐……12:44滝のト13
:04……13:17廃林道分岐

佐賀野のSさんを訪ねて当地の山の地名などを教わったとき、コメカミ沢に大きな滝がある、杉沢大滝よりも大きい、水量が少ないのは残念だ、と聞いた。好奇心で動く私としては、行つて見ずにはいられない。ついでに「奥屋敷」と聞いた所も訪ねてみよう。

「奥屋敷」の地名は、昔そこに人家があったことをうかがわせる。いつの時代、どの集落の出先で、どんな人たちが、どのような生活をしていたのか、知りたいものだ。そこには屋敷の石垣や導水溝の跡などが残っているのではないかと期待して行つてみたが、植林の中に空き瓶が転がっているだけの、ふつうの鞍部だった。六五四m山のすぐ東側に、山城跡という帯曲輪のような小平地があるのみ。それも、人工的に削平したものかどうか、よく分からない。

境沢右又へ下りる廃林道分岐点に、色あせた赤ペンキが残る木がある。よく見ると、その根元から、古い仕事道が北東の方へ下っている。コメカミ沢へはこの道を下りようだ。その道を林道縁から覗いていると、何と、一匹のタヌキが下からのそのそと上がってくるではないか。「エヘン」と言つても気づかない。林道まであと1mというところで、カメラを取り出そうと大きく体を動かした私にやつと気づき、元の道を大慌てで走り去つて行った。鈍感で愛嬌のある奴だ。

仕事道は小尾根に出て、それを下っている。傾斜は強いが、道があるので助かる。小尾根の末端が滝の落ち口だ。スッパリ落ちて迫力がある。ザイルが二本あれば懸垂下降で下りられるが、私の実力では左岸右岸とも巻き下りるのは不可能だ。滝の下へ下りる道を探すため、林道へ引き返す。

林道から見下ろすと、コメカミ沢へは植林帯のどこからでも下りられるように思える。地図を見ると、この斜面は等高線が混んでいて急傾斜のはずだが、それほどでもないのだろうか。下りる道はないかと探すと、林道のすぐ南側に、東側へ下りる古い仕事道を見つめる。その道を下りだすと、すぐに不明瞭になる。そこで適当に歩きやすい所を選んで下りる。やはりかなりの急坂だ。

滝の下に着く。釜はない。なるほど、Sさんが自慢するとおり、高くみごとな滝だ。ざっとみて四〇mほどか。確かに、水量が少ないのは惜しいことだ。左壁は岩が雑で、太い蔓が何本も無気味に垂れ下がっている。右壁は逆層だがすっきりと立っていて、滝登りの



コメカミ沢 40 mの滝

愛好家なら、良いクライミングができるかもしれない。老骨の私かもしれないとすると、ハーケン連打のアブミ掛け換え、超時代後れの人工登攀しかないだろう。もちろん、今さらそんな冷や水を浴びたくもないが…。
帰りの上りは、短いがきつかった。

◎ 「広谷良韶のページ」トップページへ移動←

<http://www42.tok2.com/home/hirotani52/>

◎ 「山遊び」ページへ移動←

<http://www42.tok2.com/home/hirotani52/yamaasobi/yamaasobi.html>

大日山・コメカミ沢の40m滝

これらの地図の作成に当たっては、『カシミール3D入門編 改訂新版』付録DVDの地図使用
 高)を使用しました。(承認番号 平24情使 第883号) 国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)及び数値地図30メッシュ(標
 ●は固有地名 ●は広谷が便宜上記したもの

